

1. 基本理念と将来像

(1) 基本理念 —まちづくりに係る普遍的な考え方—

2004年(平成16年)に6町合併により、安芸高田市は誕生しました。それぞれの地域に個性的で誇らしい文化や自然が多く存在する中で、自助・共助・公助の支え合いのもとに、安芸高田市をひとつにしてきました。2015年(平成27年)には安芸高田市第2次総合計画が策定され、2024年(令和6年)には、安芸高田市誕生20周年を記念したキャッチフレーズを一般公募し、最終選考を安芸高田市の次世代を担う中高生に審査を依頼し、その結果、

百万一心、未来へつなぐ安芸高田

(皆で力を合わせれば、何事もなし得る^注)

に決定しました。

第3次安芸高田市総合計画では、【百万一心、未来へつなぐ安芸高田】をまちづくりに係る普遍的な考え方として、基本理念に位置付けます。

そして、以下に示す3つの視点から、基本理念の具体化を図ります。

【視点①誰がつないでいくのか】：安芸高田市民と市に関わる多様な人々

【視点②誰につないでいくのか】：20年後の次世代、子や孫たち

【視点③何をつないでいくのか】：世代を超えて共通する安芸高田市

“視点①誰がつないでいくのか”については、安芸高田市に定住する市民に加えて、安芸高田市に興味・関心、愛着を持ちながら、市に関わる多様な人々と定義します。

“視点②誰につないでいくのか”については、第3次安芸高田市総合計画基本構想の計画期間が20年であることを踏まえて、20年後の次世代や安芸高田市で生まれ育つ子や孫たちと定義します。

“視点③何をつないでいくのか”については、社会経済情勢や価値観の変化によらない、世代を超えて共通する安芸高田市と定義し、基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態、すなわち、安芸高田市が目指す20年後の将来像として位置付けます。

注：毛利元就が郡山城の拡張工事の際に人柱の代わり「百万一心」と彫った石を埋めさせると工事が上手くいった逸話があり、「百万一心」には皆で力を合わせれば、何事もなし得るという意味があります。

(2) 将来像 —基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態—

① 将来像の設計方法

将来像について、まず、これまでの「歴史から見る安芸高田らしさ」を整理します。

次に、「歴史からみる安芸高田らしさ」も参考に、市民意見を踏まえて、世代を超えて共通する「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」を明確化します。その際、“安芸高田らしさ”という情緒的な整理だけでなく、安芸高田市としてどのような地域社会を目指していきたいかにも言及します。

また、20年後の次世代、子や孫たちに“安芸高田らしさ”を受け継いでいくためには、「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」と「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」も必要です。市民意見踏まえて、これらの機能を明確化します。

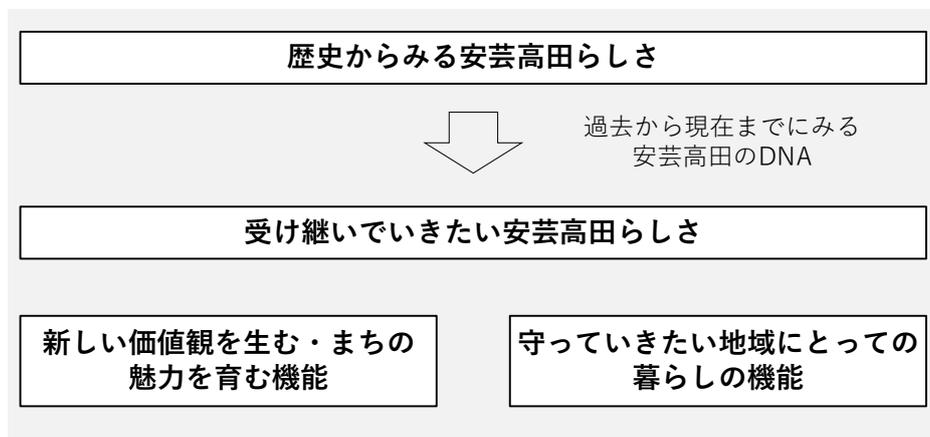


図1 将来像の設計フロー

② 歴史からみる安芸高田らしさ

歴史からみる安芸高田らしさについて、以下のとおり整理することができます。

●歴史の転換点で多様性の受容のもと成長した安芸高田市

安芸高田の地から政治・軍事において果断を重ねて成長する毛利氏の存在がありました。独裁ではなく共生のスタンスで中国地方をひとつにしていく毛利元就の柔軟性が、現在の安芸高田市に息づいています。

●山陽・山陰の結節点として交通の要を担った安芸高田市

東西の大動脈であった西国街道に近く、山陽・山陰を結ぶ出雲街道が通っていました。交通・物流の要衝であったことで、多くの人々と共に文化が行き交う場所であったと想像されます。

●様々な人・文化がとけあい、独自の文化が芽吹いた安芸高田市

石見を中心とした山陰地方から神楽が伝わり、現在では安芸高田独自の神楽として大成しました。また、吉田荘の毛利師親^{もろちか}の故事から縁起物として食べられるようになった川通り餅は、毛利元就の勢力拡大と毛利輝元の広島移転に伴い、現在の広島県で広く知られるようになったといわれています。このように、外からの文化を柔軟に取り入れて発展させ、また、他地域にも文化的影響をもたらした安芸高田の地は、新しいものが芽吹く場所でありました。

上記のとおり、歴史をひも解けば、安芸高田市には、毛利元就の存在、情緒ある自然の恵みと交通の要所として栄え、文化と人々が幾重にも重なり、独自の文化が芽吹いてきた文脈があります。

「人々と文化が“とけあう”、新しいものが“芽吹く”場所」であることが、歴史からみる安芸高田らしさといえます。

歴史からみる安芸高田らしさ

「人々と文化が“とけあう”、新しいものが“芽吹く”場所」

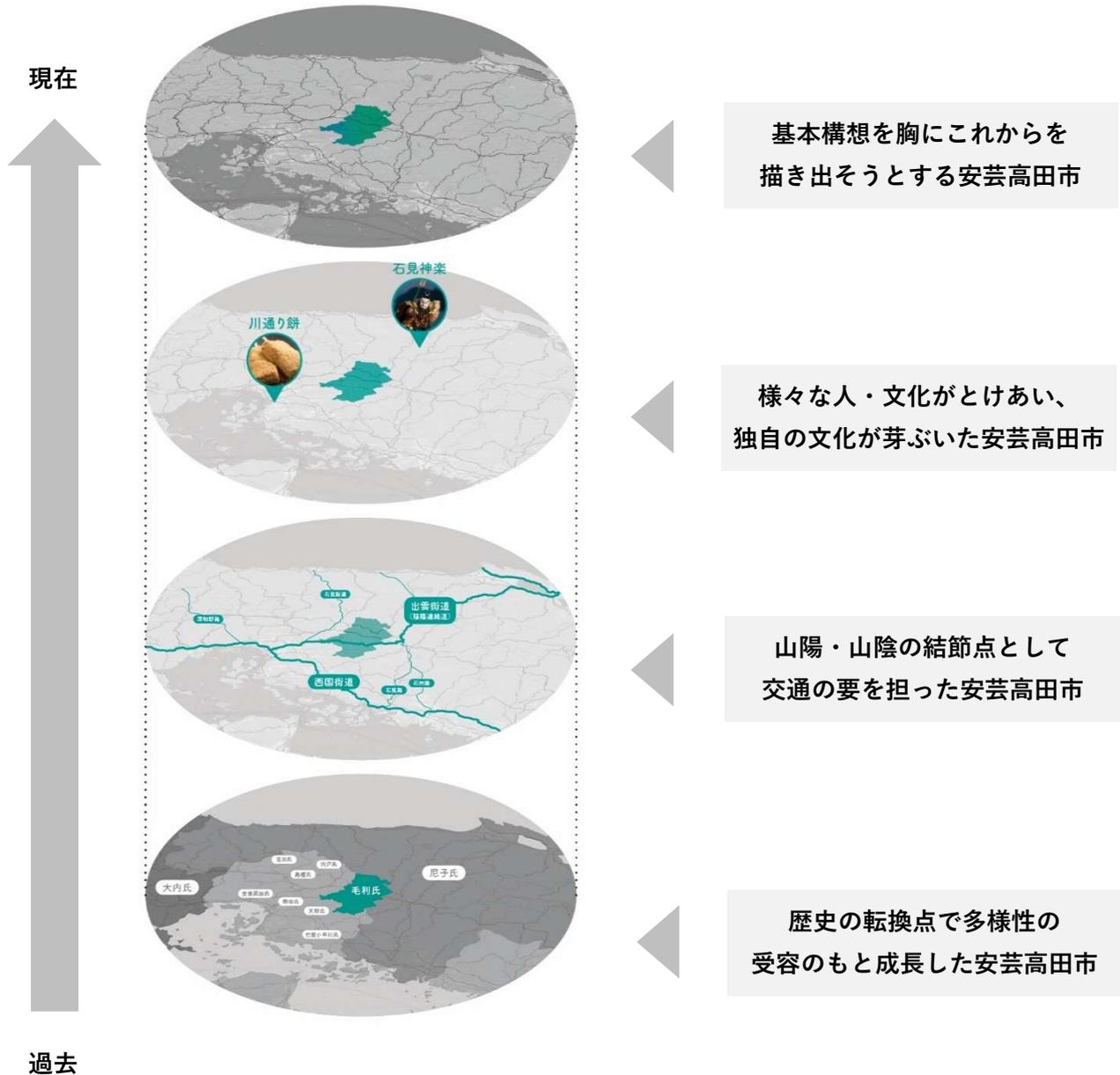


図2 歴史からみる安芸高田らしさの変遷

③ 受け継いでいきたい安芸高田らしさ

第3次安芸高田市総合計画の策定に際し、市民意見を十分に反映するために地域への各団体へのヒアリングや子育て世代を対象としたワークショップ、市民アンケート調査を実施しました。また、安芸高田市の将来を担う学生や地域で活躍する様々な方と共に、安芸高田市の未来を考えるシンポジウム「安芸高田市のまちの未来を若者と語る日」を開催し、パネルディスカッションでは、第3次安芸高田市総合計画基本構想を策定する上での多くの示唆を得ました。

以上の市民意見からみえる「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」は以下のとおりです。

●地域の多様性、多様な価値観・人材が調和

⇒受け継いでいきたい安芸高田らしさとして、「とけあう」というキーワードで表現

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継いでいきたい価値観として、「田舎の原風景」、「都会では得られないゆとり」などが、世代に関わらず一定の回答割合を占めていました。また、中高生のアンケート調査結果では、「中心部のまちなみと郊外部の田舎風景」に地域愛着との相関がみられました。

次世代、現役世代、多様な人材・価値観がまざり合うシンポジウムでは、参加者へのアンケート調査結果において、「安芸高田市の魅力を再認識した」と回答される方が多くいらっしゃいました。

このことから、安芸高田市の中心部のまちなみと、自然やゆとりを感じながら暮らせる田舎の側面が程よく調和している空間構成や、多様な人材・価値観が混在するところが市民にとっての「安芸高田らしさ」であると考えられます。

●新しい社会・地域の変化に対応でき、若者を含むみんなのチャレンジを応援

⇒受け継いでいきたい安芸高田らしさとして、「芽ぶく」というキーワードで表現

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継ぎたい価値観として、「新しい社会・地域の変化に対応できるまち」が、世代に関わらず一定の回答割合を占めていました。また、中高生のアンケート調査結果では、将来住みたいまちの姿として、学年が上がるほど、「若者の価値観やチャレンジを応援できるまち」と回答する割合が高い傾向にありました。

シンポジウムでは、高校生が発表した内容に対して、熱意と自由で斬新な発想が良かったという回答割合が高い傾向にありました。シンポジウムに参加した地域おこし協力隊をはじめ、若者を含むみんなのチャレンジを共有することができました。

このことから、新しい社会・地域の変化に対応できるまちや、若者を含むみんなのチャレンジを応援し続ける土壌も、市民にとっての「安芸高田らしさ」であると考えられます。

●自分らしく生きていける環境づくりと、相互理解のための対話

⇒受け継いでいきたい安芸高田らしさとして、「ひとつになる」というキーワードを活用

市民アンケート調査結果では、次世代に受け継ぎたい価値観として、「自分らしく生きていける環境」が、世代に関わらず一定の回答割合を占めていました。

シンポジウムでは、世代・立場を超えた対話をとおして、それぞれの価値観を共有し、他者の発表や意見を当事者意識をもって受けとめている光景が見受けられました。また、“一人ひとりの想いを形にできるまちであって欲しい”というコメントもありました。

このことから、自分らしく生きていける環境を尊重・実現するためには、多様性の受容による市民一人ひとりの相互理解が必要であり、市民にとっての「安芸高田らしさ」を次世代に受け継いでいく上で、重要な考え方といえます。

以上の結果を踏まえて、「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」を以下のとおり整理しました。

とけあい、芽ぶき、一つに就る。

安芸高田市は市街地と田園地帯がとけあう、暮らしやすいまち。
この風景の中で歴史と文化、多様な人々とがまざりあい、
まちのカタチと新しいモノ・コトを織りなしてきました。

今、若者をはじめ、多くの市民の新たなチャレンジが、まちのあちこちで芽ぶいています。

お互いの生き方や価値観を尊重し、対話の中で解決や決定がおこなわれるまち。

とけあい、芽ぶき、一つに就る、こうした価値観を次世代に受け継ぎます。

④ 新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能

市民アンケート調査結果によると、20年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設として、世代に関わらず、「道の駅『三矢の里あきたかた』」の回答割合が最も高いです。

「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」の実現には、多様な人々が交じり、新しいことが芽ぶく場所づくりも必要です。道の駅をゲートウェイに、各地区の魅力を活かしていく取組が重要です。

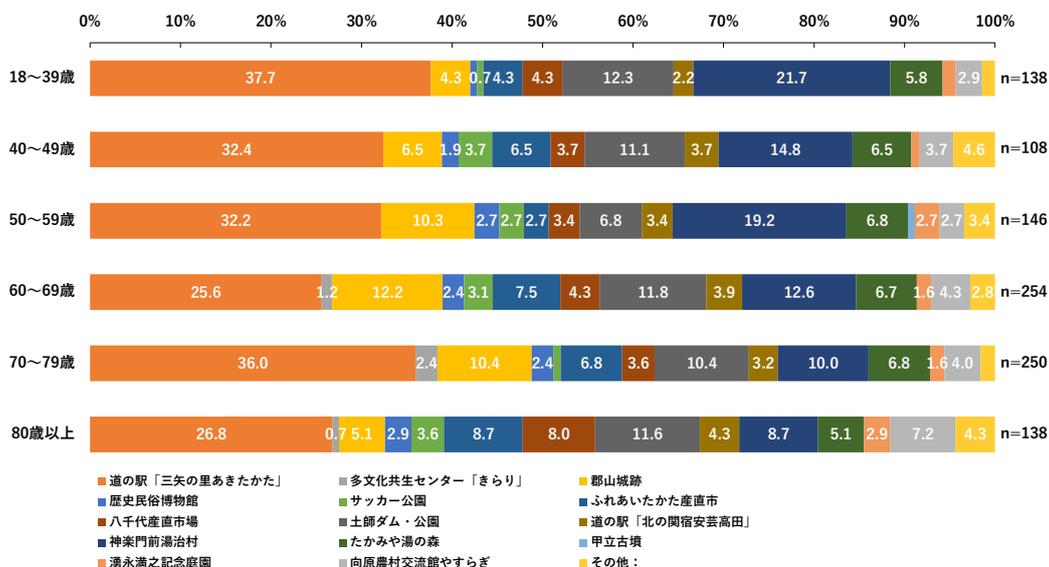


図3 20年後の未来、安芸高田市で機能・サービスを強化すべきと思う公共施設【第1位の回答】

⑤ 守っていききたい地域にとっての暮らしの機能

市民アンケート調査結果によると、20年後の未来、安芸高田市で残していくべきと考える生活機能として、世代に関わらず、「医療・診療施設」、「公共交通（鉄道・バス）」の回答割合が高いです。

「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」の実現には、生活する上で必要な機能を守ることも重要です。

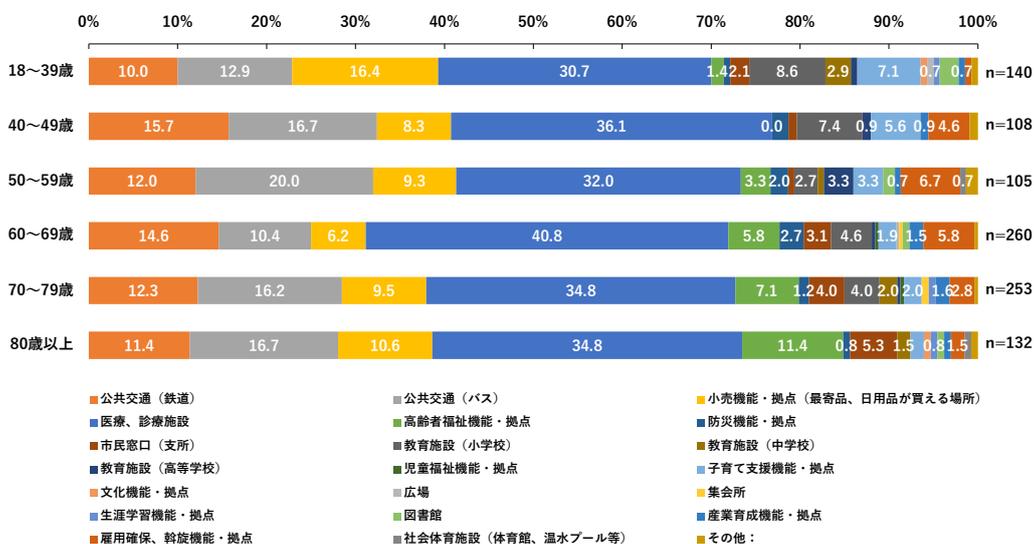


図4 20年後の未来、あなたが安芸高田市で残していくべきと考える生活機能【第1位の回答】

3. 将来像の実現に必要な目標値

(1) 目標指標の設定

将来像の実現に向けて、市民をはじめ、次世代の子や孫たちへの約束事として、行政が目指す目標指標及び目標数値を事前明示します。

上記を踏まえ、目標指標は以下のとおり設定します。

●基本理念 「百万一心、未来へつなぐ安芸高田」を評価する目標指標

基本理念は「まちづくりに係る普遍的な考え方」であり、目標指標も普遍性があることが重要です。

このため、「市民の幸福度」を目標指標として設定します。

●将来像 「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」を評価する目標指標

将来像の「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」は情緒的な側面が強く、市民にとっての愛着を示しているといえます。

このため、「地域への愛着度」を目標指標として設定します。

●将来像 「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」を評価する目標指標

将来像の「新しい価値観を生む・まちの魅力を育む機能」は地域内外の新たな交流を生み出し、地域経済を強化していこうとする側面が強いです。このため、地域外からの外貨を増やして（≒関係人口・観光客数）、そこで稼いだ資金を地域内に循環させ（≒地域経済循環率）、所得の向上（≒産業の付加価値額）を図っていくことが重要です。

このため、「観光客数」、「地域経済循環率」、「産業の付加価値額」を目標指標として設定します。

●将来像 「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」を評価する目標指標

将来像の「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」は医療や公共交通など、地域に住み続ける上で必要不可欠な生活機能であり、その存続可能性は定住人口に依存します。

このため、「定住人口」を目標指標として設定します。

(2) 目標値の設定

各目標指標の目標値について、以下のとおり設定します。これにより、第3次安芸高田市総合計画基本構想の実現を図っていきます。

なお、各目標指標の詳細は次頁以降で整理します。

表1 目標指標の現況値及び目標値

区分	目標指標	現況値		目標値	
		年度	値	年度	値
基本理念 「百万一心、未来へ つなぐ安芸高田」	市民の幸福度	2024	6.0-7.6点	2045	現況値以上
将来像 「受け継いでいき たい安芸高田らしさ」	地域への愛着度	2024	27-67%	2045	現況値以上
将来像 「新しい価値観を生 む・まちの魅力を育 む機能」	産業の付加価値額	2021	425万円/人	2045	430万円/人
	地域経済循環率	2018	80.5%	2045	85.0%以上
	観光客数	2023	226万人	2045	250万人以上
将来像 「守っていきたく い地域にとっての暮 らしの機能」	定住人口	2024	2.4万人	2045	1.8万人

① 市民の幸福度

世代別の市民の幸福度（平均値）の現況値は以下のとおりです。20年後の2045年は現況値以上とします。なお、4年毎に評価を行い、目標値の精度向上を図ります。

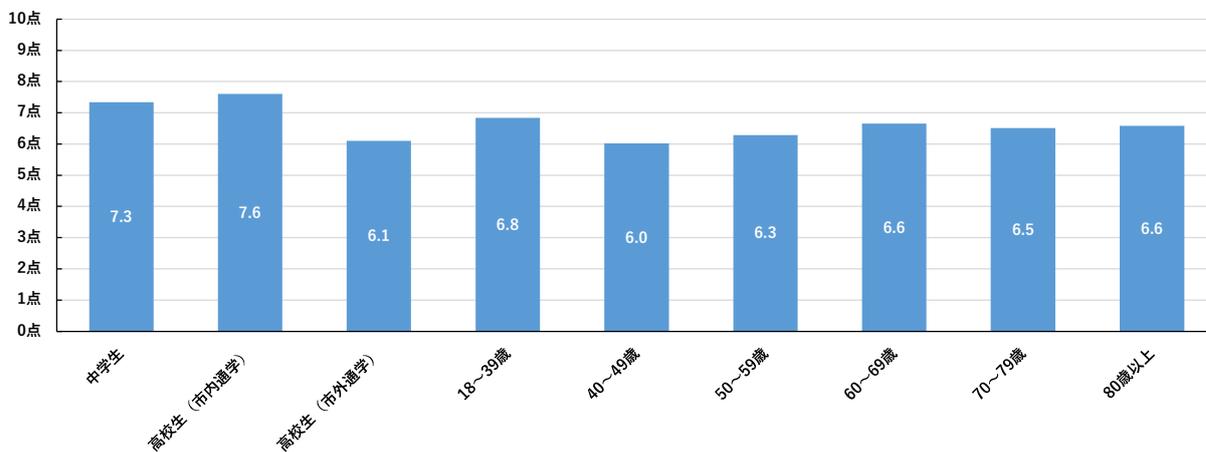


図5 世代別の市民の幸福度（平均値）

② 地域への愛着度

世代別の地域への愛着度の現況値は以下のとおりです。20年後の2045年は現況値以上とします。なお、4年毎に評価を行い、目標値の精度向上を図ります。

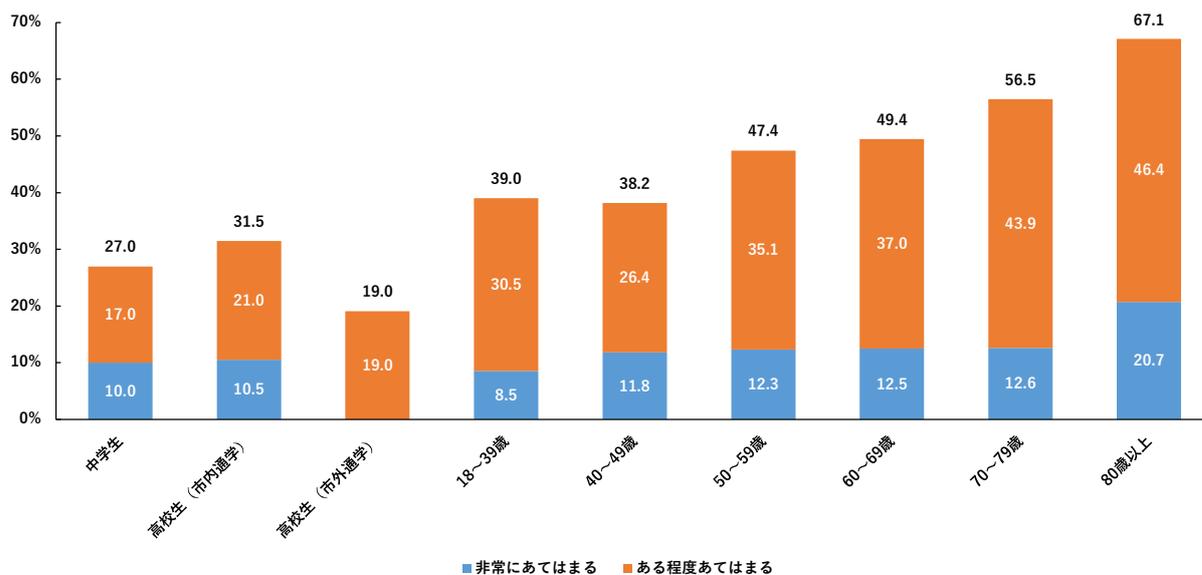


図6 世代別の地域への愛着度（暮らしている地域にずっと住み続けたいか）

③ 観光客数

観光客数の推移は以下のとおりです。総合戦略の目標値との整合を図り、20年後の2045年は250万人以上とします。

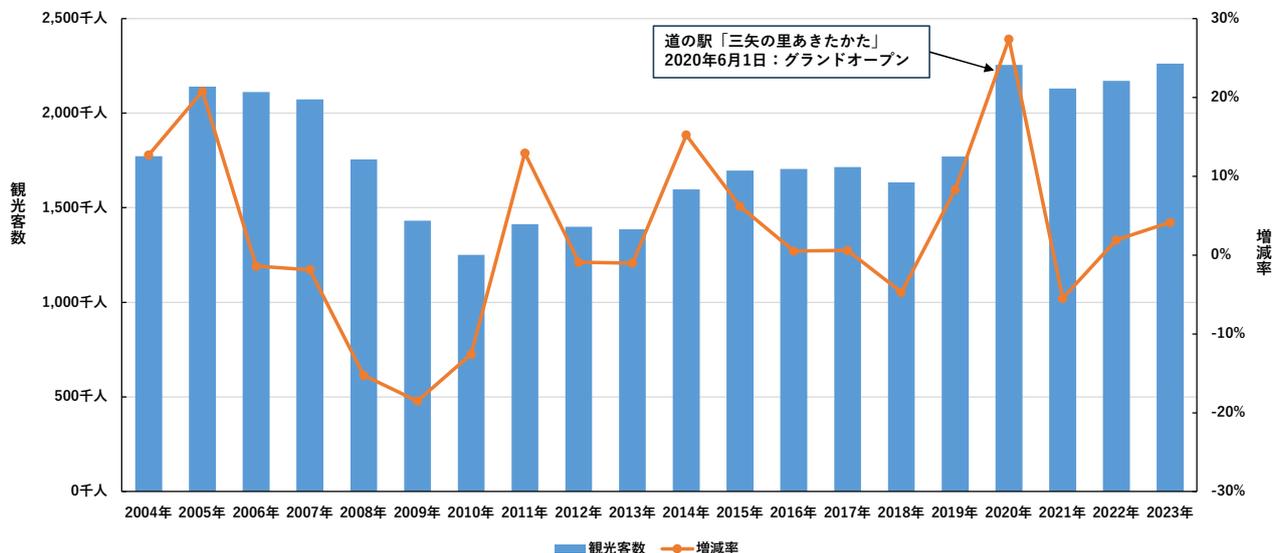


図7 観光客数の推移

出典：一般社団法人広島県観光連盟（HIT）『令和5年広島県観光客数の動向-III-観光客統計表』

④ 地域経済循環率

地域経済循環率の推移は以下のとおりです。総合戦略の目標値との整合を図り、20年後の2045年は85%以上とします。

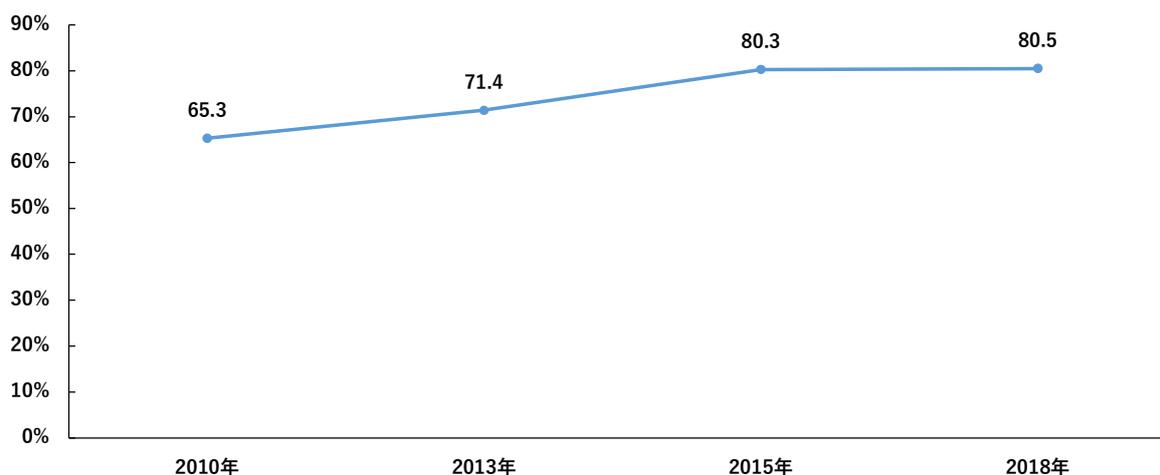


図8 地域経済循環率の推移

出典：RESAS（地域経済分析システム）『地域経済循環マップ』

⑤ 産業の付加価値額

事業従業者一人当たり純付加価値額の推移は以下のとおりです。目標値の設定に際しては、事業従業者一人当たり純付加価値額と地域経済循環率の相関関係に基づく回帰式 ($y=3.2874x+148$) を活用して、地域経済循環率の2045年の目標値85%をxに代入して、産業の付加価値額の2045年の目標値は427万円(≒430万円)とします。

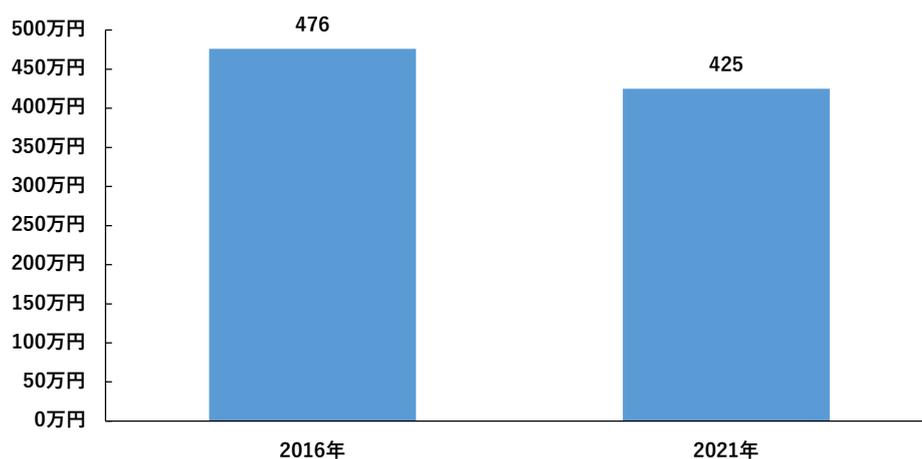


図9 事業従業者一人当たり純付加価値額の推移

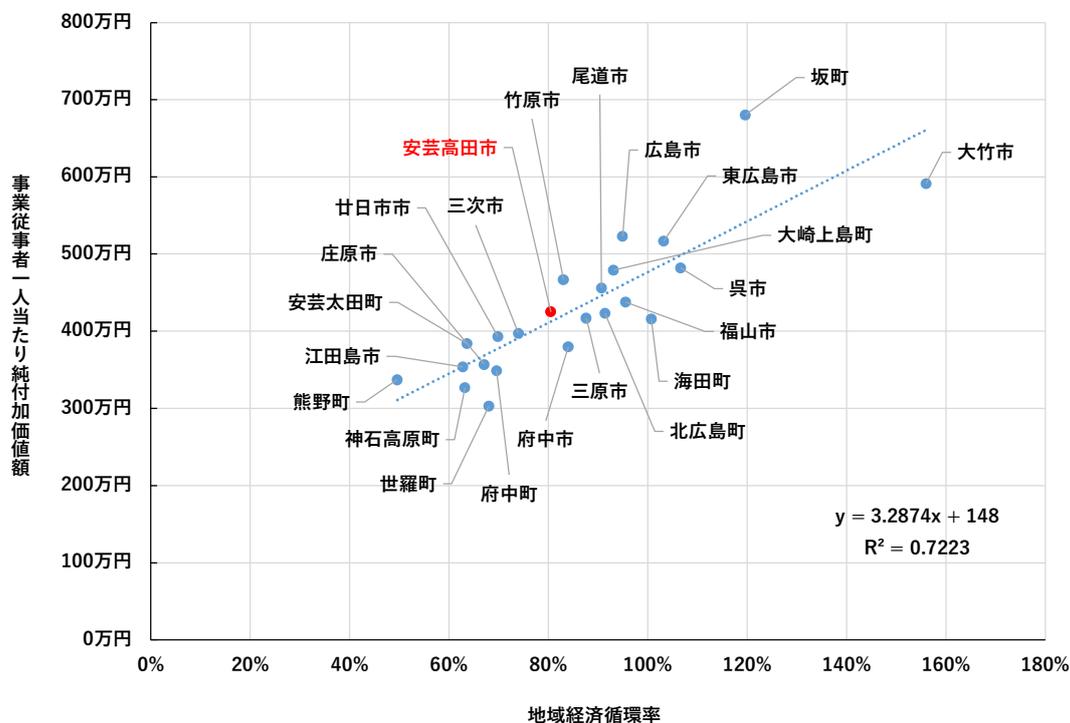


図10 事業従業者一人当たり純付加価値額及び地域経済循環率の散布図

出典：RESAS（地域経済分析システム）『地域経済循環マップ』（2018年）、
経済産業省『経済センサス-活動調査』（2021年）

⑥ 定住人口

将来の人口が減少し続ければ、行政サービスの低下、生活関連サービス施設の撤退や地域コミュニティの衰退など、あらゆる問題が発生することが懸念されます。例えば、国土交通省の資料によれば、定住人口が1.75万人を下回ると救急告示病院の存続確率が50%を下回ることが指摘されています。

こうした状況を防ぐためには、安芸高田市では、政策シナリオB(毎年、市全体で計126名の転入促進又は転出抑制)程度の政策強度で、2045年には約1.8万人の定住人口を維持する必要があります。

なお、将来人口については、2015年及び2020年の国勢調査データを活用して、旧6町別に性別・5歳階級別のコーホート変化率、子ども女性比を算出して、コーホート変化率法により推計しています。

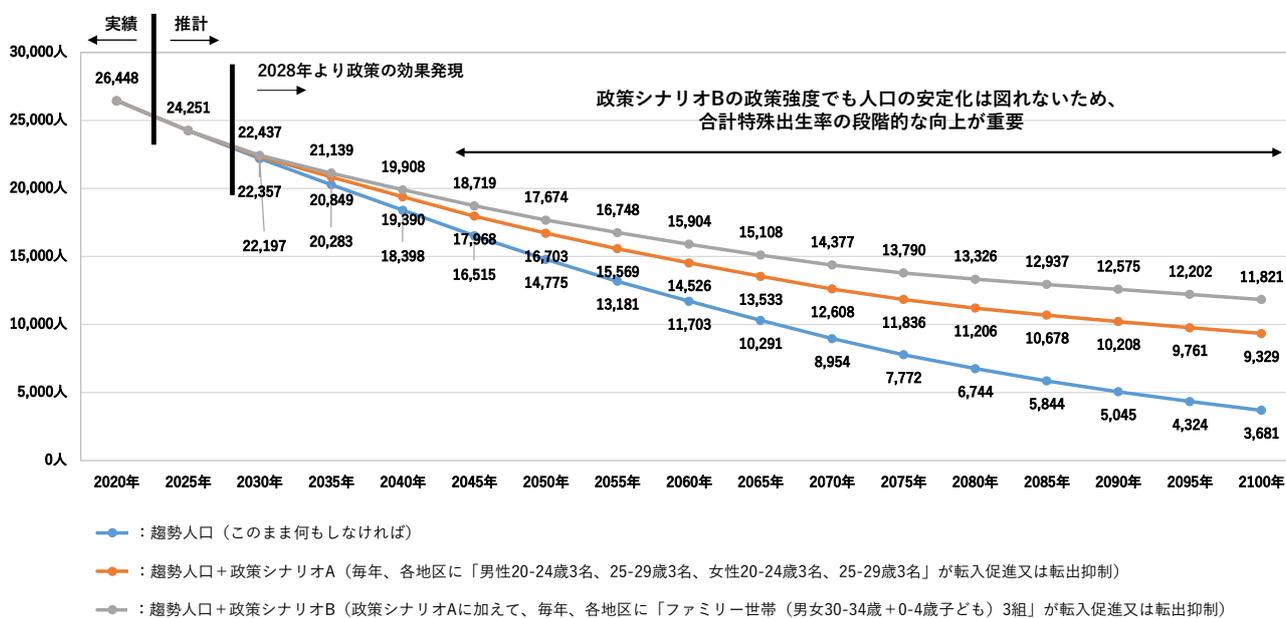
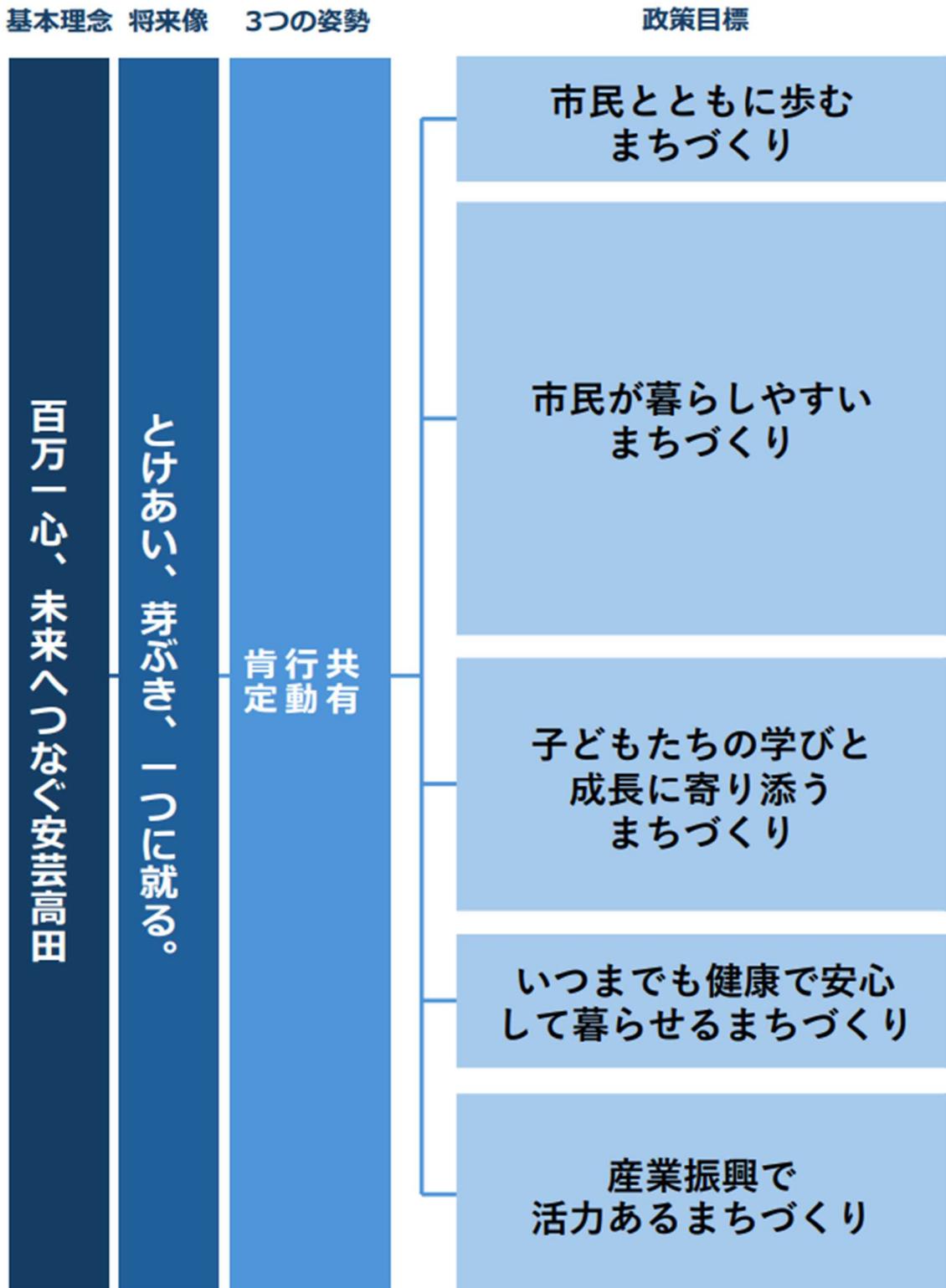


図 11 シナリオ別の人口の超長期推計の結果

出典：国勢調査（2015年・2020年）、国立社会保障人口問題研究所のデータを活用して、独自に推計

4. 政策体系

第3次安芸高田市総合計画基本構想の政策体系は以下のとおりです。



施策体系（名称は再考）

- ・市民と行政の対話による寛容なまちづくり
- ・公共施設の総延床面積の削減による行財政改革
- ・職員の育成と機能的な組織づくり

- ・おたがいさまの気持ちで繋がり、誰も置き去りにしないまちづくり
- ・地域振興組織等による住民自治のまちづくり
- ・あらゆる危機に対する防災・減災のまちづくり・災害死ゼロに向けた自助・共助の推進：お互いさまの気持ちで繋がり、誰も置き去りにしないまちづくり
- ・高齢者・子どもの見守りと居場所づくり
- ・買い物不便地域解消のための移動販売の推進
- ・公共交通機関の空白地帯を補完するための取組の検討
- ・地域内外の移動を支える交通インフラの維持・管理
- ・互いを尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現
- ・ひろしま安芸高田神楽の魅力発信と安芸高田市のファンの拡大
- ・誰もがスポーツに親しみ、スポーツへの関心を高めることが出来る機会の創出
- ・道の駅等の拠点施設を活用した市内外からの集客による賑わいの創出
- ・地域の持続可能性を高める循環型社会の推進

- ・社会の未来を担う子どもを育てる制度と仕組みの見直し
- ・安心して産前産後期間を過ごせるためのサポート支援
- ・子どもたちの共感性、内発性、創造性を伸ばす保育支援
- ・子どもたちにより良い学習環境を提供するための取組の検討
- ・いじめや不登校等悩みを抱える児童生徒を支援するための体制整備
- ・フリースクールやオンライン教室を通じた子どもの学びの場の拡充・連携
- ・多世代交流拠点としての役割も担う子ども食堂の実現

- ・誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり
- ・高齢者の健康の保持増進・介護予防、社会活動等への参加の推進
- ・全ての市民の健康に欠かせない地域医療の体制の確保・強化

- ・企業誘致（IT企業等）による地域経済の活性化
- ・市内商工業の振興に向けた各種団体との連携支援
- ・農業経営基盤強化の推進による稼げる農業の実現
- ・林業従事者の育成確保と適切な森林整備
- ・自然、文化、歴史等の地域資源を生かした観光づくりの推進

(1) 将来像の実現に必要な3つの姿勢

市民意見を踏まえて、多様な人々の価値観を**肯定的**にとらえ認めて、**行動**することで次の展開が進み、それを周りの人に**共有**することで、魅力的で一人ひとりが好きな安芸高田市を目指します。

(2) 将来像の実現に必要な政策目標

将来像の実現に必要な政策目標として、以下に示す5つを掲げます。

政策目標1：市民とともに歩むまちづくり

市民と行政の対話を通じて、安芸高田市として推進したいまちづくりへの相互理解を深め、市の情勢に適した行財政改革を実現します。また、行政組織の効果的・機能的運用の実現のために職員の育成と組織づくりをすすめます。

政策目標2：市民が暮らしやすいまちづくり

市民一人一人の尊厳と自主性を互いに認め合える文化の醸成を目的とし、地域振興組織やコミュニティ活動を通じた市民の相互理解を推進します。また、それぞれの地域の課題に対して、安芸高田市としての課題という認識を市民・行政が一致して持つことにより、自助・共助・公助の円滑な連携を土台とし、市民の生活に即した課題解決を市民・行政が一体となって取り組みます。

安芸高田市が持つ有形・無形資産を通して、市民のシビックプライドを醸成するとともに、市外に対する積極的なプロモーション活動を展開し、交流人口・関係人口の拡大を目指します。

政策目標3：子どもたちの学びと成長に寄り添うまちづくり

安芸高田市の宝である子どもたち一人一人に対して、その年代・その背景に配慮したきめ細かな支援を実施します。また、子どもたちに学びに対する多様な選択肢を整備することで、子どもたちの個性に合った教育を実現するとともに安芸高田市の新たな芽吹きを促進します。

家庭、地域や学校といった子どもたちを取り巻く状況に対して、対話と相互理解を念頭においた支援を実施し、誰もが子どもたちに寄り添い、歩んでいるという意識の醸成を促進します。

政策目標4：いつまでも健康で安心して暮らせるまちづくり

誰もが生涯にわたって、健やかに過ごせるよう、健康づくりへの支援や意識啓発を促進するとともに誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう医療機関や団体などと連携した地域の体制

づくりを推進します。また、健康寿命延伸に向けた取組として、健康管理や予防促進を展開するとともに、積極的な社会活動への参加を呼びかけます。

乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージ*における健診制度を活用し、疾病の早期発見や自らの健康管理に活かせるよう、健診の利用促進を図ります。また、必要なときに、安心して質の高い医療を受けることができるよう、地域の医療提供体制の充実を支援します。

政策目標 5：産業振興で活力あるまちづくり

安芸高田市の経済を支える主要産業である農業や製造業をはじめ、林業及び水産業の活性化に取り組めます。また、インターネット環境を充実させることにより、ICT*産業やサテライトオフィス*等新たな産業の創出を図ります。

観光業においては、地域の歴史・文化などの資源を磨き上げるとともに外部へ積極的に発信することで、新たな観光資源の創出と新規雇用を生み出します。

*ライフステージ：乳幼児期、青壮年期、高齢期等の人の生涯における各段階

*ICT：information and communication technology の略。デジタル化や通信技術を活用したコミュニケーションを通して、円滑なコミュニケーションの促進や生産性や業務効率の向上を図ること

*サテライトオフィス：企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィスのこと

(3) 横断的な政策手段

人口減少に伴う財政の縮小を踏まえれば、①公民連携の推進、②デジタルの活用による行政サービスの効率化が必要不可欠です。また、その実現のためには、③市内外へのプロモーションにより、安芸高田市の魅力や価値を共有し、共感と行動変容を促すとともに、観光客・関係人口の増加や民間投資を促進していくことが重要となります。

第3次安芸高田市総合計画では、こうした横断的な政策手段を推進していきます。

表2 横断的な政策手段の概要

横断的な政策手段		内容
大分類	中分類	
公民連携の推進	担い手の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業等の外部人材の活用により、行政サービスの効率化等を推進 ・コミュニティ組織と連携して、政策課題を地域課題に移行
	サービス・技術の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業等が保有するサービス・技術の実証の場を提供
	資金の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・PPP/PFIによる公共施設等の維持・管理、運営を最適化 ・成果連動型民間委託契約方式（PFS/SIB）の導入による公共サービスの効率化 ・ふるさと納税、企業版ふるさと納税による公共投資の原資の確保 ・まちづくりの取り組みに対する地域住民の出資、クラウドファンディング等による地域エンゲージメントファイナンスの推進
デジタルの活用	庁内の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・行政手続のデジタル化や行政内部のデータ連携等を通じて、業務効率化を推進
	地域の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へのデジタルの導入による、あらゆる生活サービスの質の向上を推進 ・デジタルリテラシーを高め、デジタルの導入の寛容性を高める取り組みを推進
プロモーションの強化	市内の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸高田市の魅力や価値を共有し、共感と行動変容を促進
	市外の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸高田市の認知度を高めて、観光客・関係人口の増加や民間投資を促進

5. 計画の推進

地方自治体を取り巻く社会情勢は、益々厳しさを増しています。基本構想に掲げた目標を着実に推進していくため、次の基本的な姿勢に立脚し、様々な行政課題に積極的に挑戦する市政を目指します。

●基本計画の策定と推進

基本構想に基づく具体的な取組を進めるうえでの指針となる「基本計画」を策定し、総合的・計画的な行政を推進します。また、社会情勢の変化等に対しては計画を見直す等、柔軟に対応します。

●健全な財政運営と行政改革の推進

基本計画の策定・推進に際しては、次世代に負担をかけることのないよう、財政健全化計画の推進に努めます。また、目標・計画の着実な実施に向け、安芸高田市行政改革を推進します。

●行政評価による経営管理

個別の施策や事務事業については、行政評価システムにより検証及び改善を図ります。

●広域連携の推進と国・県等関係機関との連携強化

行政サービスの一層の専門化、高度化及び厳しい財政状況の観点から、広島広域都市圏及び近隣市町との連携強化により、効率的・効果的な事業推進に努めます。

総合計画の円滑な推進を図るため、国県等関係機関との連携を密にし、効率的かつ着実な事業推進に努めます。